

昭和十七年十二月二十五日 印刷 納本
昭和十八年一月一日 (毎月一日一回發行)

禁轉載

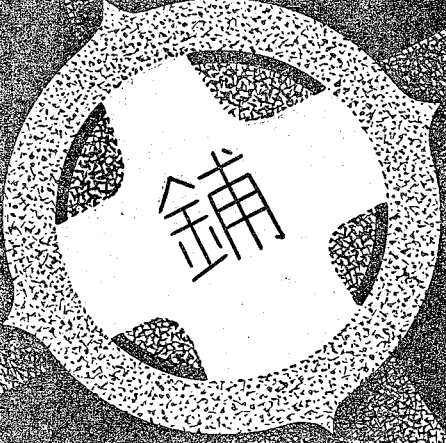
道路の改良

第二十五卷
第一號

W
24

社団法人
道路改良會

鋪裝報國



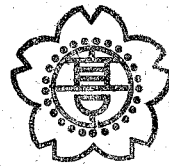
東京・丸の内

日本鋪道株式會社

社長 淺利三朗

東京・大阪・福岡・札幌・京城・臺北・新京・橫濱・名古屋・京都

土木建築
道路鋪裝
工事請負



株式會社 高野組

本社

東京市京橋區越前堀二ノ一

電話京橋(56)一、九二三番・七、八二五番
七、三二〇番・八、〇七二番

倉庫

東京市品川區東品川三ノ三

電話高輪(44)五三四〇番

大阪出張所

大阪市北區梅ヶ枝町一五七(梅ヶ枝ビル)

電話北(36)一、九五六番・一、九八八番

福岡出張所

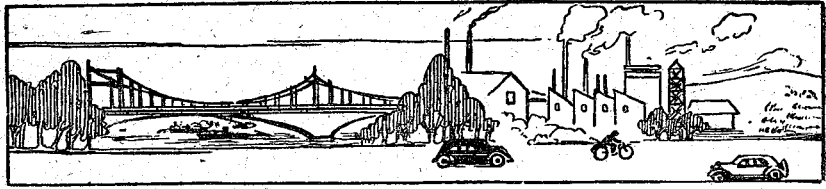
福岡縣糟屋郡和白村奈多

電話和白二二八番

上海出張所

上海市老靶子路二六九號

電話(02)四三、二二三番・三、九五〇番



道路の改良 第二十五卷第一號 目次 昭和十八年二月一日發行

口繪

茨城縣六號国道改修工事鉦入式
 靜岡縣駿東郡靜浦村國民學校生徒道路愛護作業實況

卷頭言

論說

新年を迎へて……………道路改良會長 水野鍊太郎(五)
 年頭の辭……………内務省國土局長 新居善太郎(六)

最近の貨物自動車運送事業について……………早稻田大學教授 島田孝一(八)

研究

バルカン諸國の歴史産業交通の概況(一)……………多田基(三)
 獨逸道路交通法人及車輛ノ道路交通許可令(四)……………

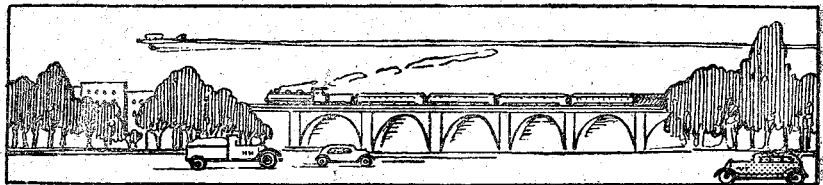
資料

鐵筋重ね接手熔接法の經濟的價値に就て……………日本大學助教授 小野竹之助(四)

說苑

道路改良會首腦部と道路問題の推移(一) || 山田英太郎氏 ||……………清水生(五)
 逓信省所管電氣通信線路の建設等の爲にする道路の占用……………土木事務官 近藤欣一(六)

南方交通の復興と道路について……………宮本生(七)
 靜岡縣に於ける道路愛護運動(二)……………靜岡縣廳 左右田友三郎(七)



土木資材を取扱つて.....佛子果(八)

時局日誌(六十三).....Y H 生(金)

内務省特報

内務省告示(高槻市設置)◎昭和十八年度歳出豫算に關する政府の決定◎十二月二日廣島縣全廳員に對する東條首相の訓示◎内務省委員定例懇談會左の通り開催◎昭和十八年度道路關係豫算概要.....(一〇〇)

地方通信

東海道自動車道路の調査◎山口縣下沖浦道路改修◎高知縣下志和道路作業◎高知縣林道開通式の舉行◎福岡縣北部新國道の開設.....(二六)

法令

最近内務省に於ける路政關係行政處分例.....Y A 生(二九)

通牒 遞信省所管電氣通信線路建設等ノ爲ニスル道路ノ占用竝ニ費用負擔等ニ關スル内務、遞信兩省協定ノ件依命通牒

通牒 國際電氣通信株式會社ノ線路建設等ノ爲ニスル道路ノ占用等ニ關スル件依命通牒

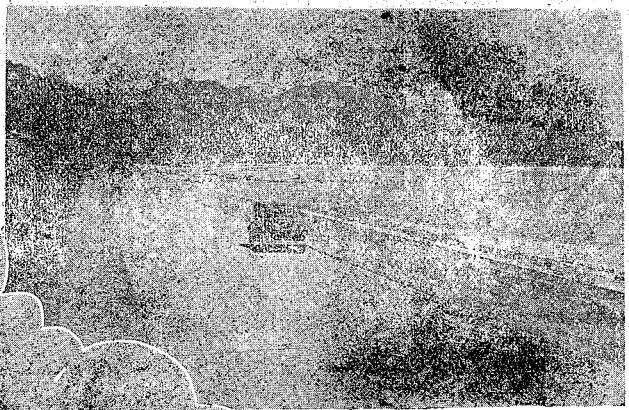
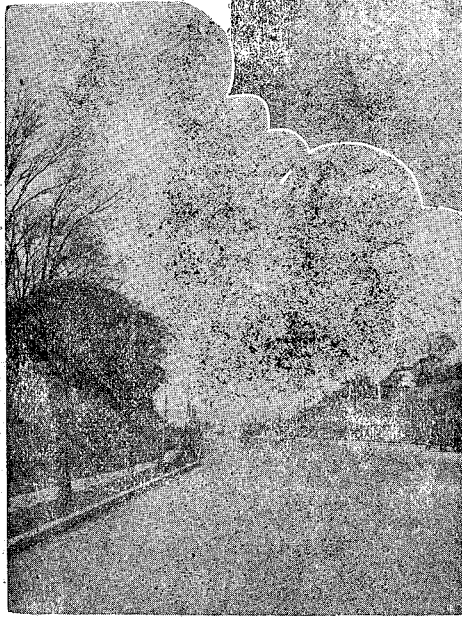
通牒 電氣通信線路建設等ノ爲ニスル道路ノ占用竝ニ費用ノ負擔等ニ關スル協定ノ依命通牒

雜報

全日本科學技術團體聯合會第一回代表者總會◎北九州新國道着工◎内務省土木試驗所談話會◎近刊圖書雜誌.....(一三〇)

叙任辭令.....(一三三)

編輯室の内外.....(一三四)



淺野ポルトランドセメント
一般工専用

淺野高爐セメント

下水工事ニ

好適

淺野ベロセメント

短期高强度

工事期間短縮

工事費節約

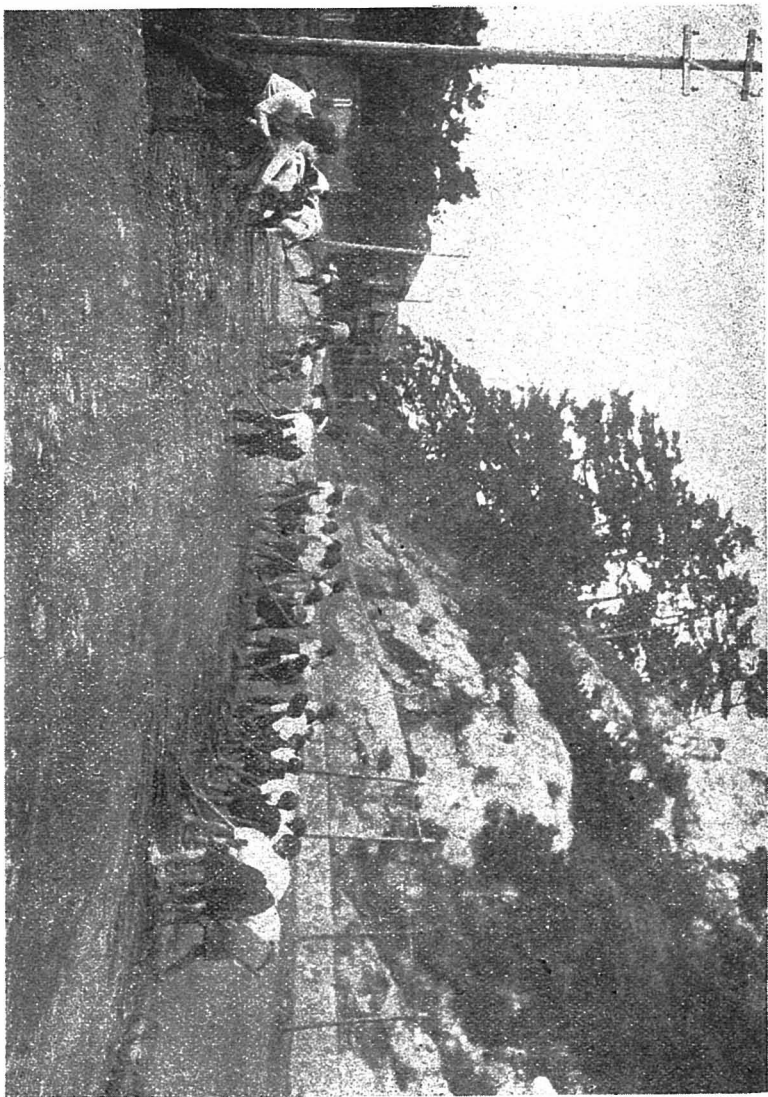
淺野セメント株式會社

東京市丸ノ内海上ビル

茨城縣六號國道改修工事鍬入式

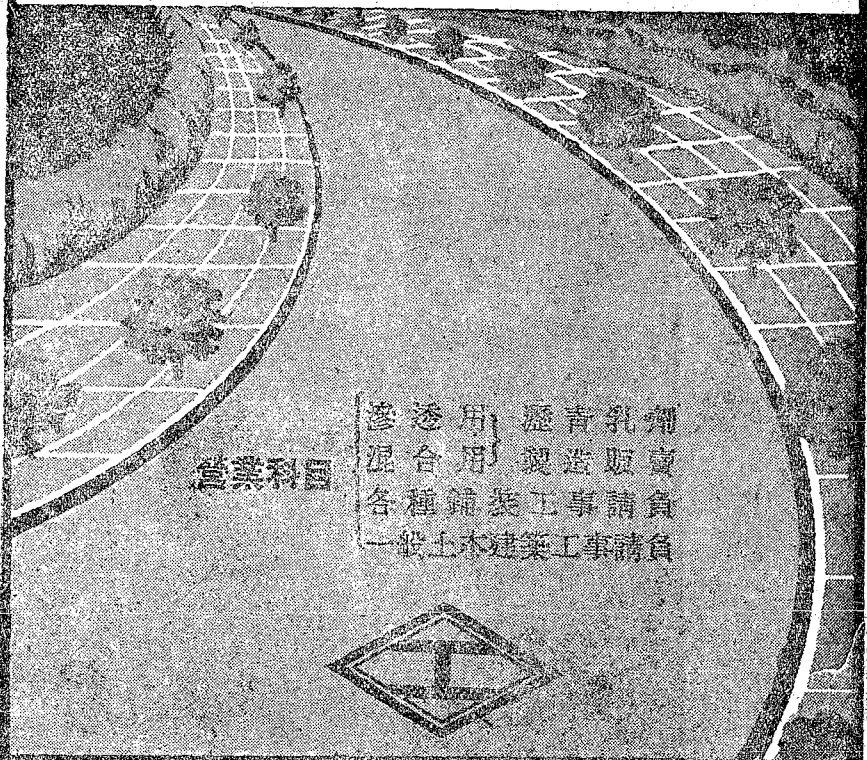


靜岡縣駿東郡靜浦村國民學校生徒道路愛護作業實況



道 路 鋪 裝

(力 夕 □ 夕 贈 呈)



營業科圖

瀝青乳劑
混合用 製造販賣
各種鋪裝工事請負
一般土木建築工事請負

東邦工業合資會社

本社 { 東京市赤坂區青山北町四ノ一〇三
電話青山(36)四九七三・八一四八

工場 { 神奈川縣川崎市幸町三ノ六一二
福岡縣小倉市富野町下道田一四一三ノ二

營業所 { 名古屋市・京都市・大阪市
岡山市・廣島市・小倉市・熊本市

謹賀新年

昭和十八年一月一日

社団法人 道路改良會

顧問 湯澤三千男

内務大臣

顧問 橋本圭三郎

顧問 大橋新太郎

同 内藤久寛

會長 水野鍊太郎

内務次官

副會長 山崎巖

同 山田英太郎

常務理事 新居善太郎

同 佐上信一

(理事いろは順)

理事 岩澤忠恭

同 岡野昇

同 金子源一郎

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

三浦七郎 佐藤利恭 青山士 赤松小寅 藤井眞透 牧彦七 岡田文秀 長岡隆一郎 長崎惣之助 田中好 辰馬鎌藏 谷口三郎 篁正太郎

同 同 同 同 同 同 同 同 幹事 監事 同 同

平井良成 大熊貞邦 弘津恭輔 近藤欣一 宇佐美毅 武若時一郎 井闕正雄 川上和吉 青木楠男 西野元 鈴木雅次 廣瀨久忠

土木設計計算例集

- 愛知縣土木技師 田島治身著
 第 1 輯 **無鉸コンクリート拱橋の近似
 計算法** B5 100頁 円1.80
- 哈爾濱工大教授 高見太一著
 第2.3.4輯 **鐵筋コンクリート設計計算例** B5 上 120頁 円2.30
 中 100頁 円2.50
 下 120頁 円2.00
- 神戸高工教授 江藤 禮著
 第 5.6輯 **應 用 力 學 計 算 法** B5 上 120頁 円2.50
 下 140頁 円2.70
- 北支建設總署技正 有坂誠喜著
 第 7 輯 **馬蹄型水路斷面計算法** B5 90頁 円2.00
- 愛知縣土木技師 田島治身著
 第 8.9輯 **木 橋 の 設 計 計 算 例** B5 上 200頁 円3.50
 下 200頁 円3.50
- 鐵道省技師 坂元左馬太著
 第 10 輯 **土 木 工 事 の 步 掛** B6 200頁 円2.50

本社編輯部版
水力發電所工事設計施工例 A 5.200頁
 設計圖寫真
 60數葉挿入
 例 泰阜發電所 円3.20 送 26

- 工學士・建築士 柳瀬 駿著
アメリカ工場建築事情 A5 200頁 円2.00
 送 .14
- 橫濱高工助教授 大泉博一郎著
建築便所の研究 B6 200頁 價 2.50
 送 .16
- 橫濱高工教授建築科長 中村順平著
 近刊 **建築學** =總說編= B5.350頁 圖・面 寫 眞
 約200葉挿入
 円10.00 送 .65

大東亞技術研究会編
南方技術 B5 第一輯90頁 円1.50
 送 .06
 南方關係の技術資料第2輯發行 B5 第二輯70頁 円1.00
 送 .06

一月刊 **土木雜誌** 半ヶ年 3.00 科學の振興と技術の公開をモットー
 一ヶ年 6.00 として數社合同新しく生れた國策雜
 (送 共) 誌なれ共 18年の歴史と最新の内容
 を有する土木専門の工學雜誌なり
 ◎御注文書籍・雜誌は總て書店又は直接本社振替東京151.195番へ

東京・丸ノ内 3丁目6番地 **土木雜誌社** 振替東京 151.195番
 電話丸ノ内(23)2633番

工學博士 牧 彦七先生責任編輯

實用土木講座

特典附
新會員募集

內務技監
鈴木雅次

前內務技監
谷口三郎

前內務省大工
前出張所長
佐藤利恭

推薦

初級・上級共に完成!!

内容の一部
應用力学
鐵筋コンクリー

土木材料
土木學
測量學
河川工學

砂防工學
水力發電
都市計畫

以上初級の一部
土木工事監督
土木學

工博技師 七、工博青木楠男
工博技師 森之農博赤木
正務技師 水谷 鐵道
技師 倉品 鐵道
吉雄 農林技師 倉品 鐵道
工博岩崎富久、他十數氏

入會の絶好機
△初級一ヶ月
△上級一ヶ月
△二ヶ月
△三ヶ月
一圓送付
二圓送付
三圓送付
月修了會費
一ヶ月
二ヶ月
三ヶ月
送付
納

東京市麹町區飯田町二ノ十一

日本土木工學會

振替東京二〇八三四番

内容見本申込次第急送

鐵道工學會會長 八田嘉明先生監修

鐵道工學講座

新會員募集

會費一ヶ月二圓
五十錢全卷三〇圓
送料二五錢
内容見本
申込
急送

全十二卷内容概略

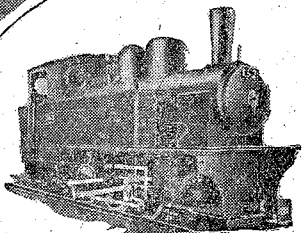
- 1 鐵道地質 鐵道技師 廣田孝一
- 2 線路選定 鐵道技師 大木利彦
- 3 線路土工 廣部部長 西岡宏治
- 4 鐵道橋 日大教授 成瀬勝武
- 5 鐵道墜道 鐵道技師 佐藤周一郎
- 6 軌道構造保線 鐵道技師 川口祐康
- 7 信號保安設備 鐵道技師 藤原孝一
- 8 停車場 鐵道技師 岡田信次
- 9 都市鐵道 鐵道技師 山崎匡輔
- 10 鐵道車輛 鐵道技師 多賀祐重
- 11 初級電氣工學 鐵道技師 池田陽男
- 12 工事關係法規 鐵道技師 中島安一郎

東京市麹町區飯田町二ノ十一

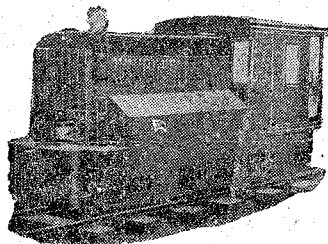
鐵道工學會

振替東京五二二七番

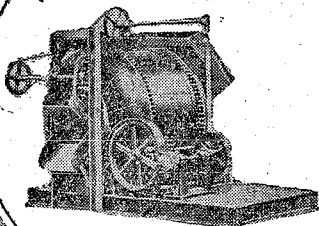
田中の土木諸機械



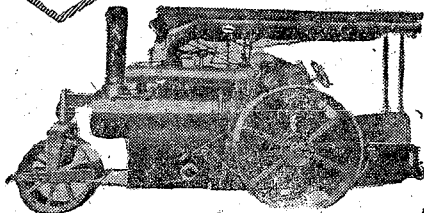
蒸気機関車



ガソリン重油機関車



コンクリート混合機



ステーム道路碾壓機

車輜機具

田中主鑛機株式會社

本社	東京市京橋區京橋三丁目七番地 (京橋際)	電話京橋(56)5509・8340番
工場	東京市足立區千住曙町三八	電話足立3924番
	東京市板橋區志村前野町一八五五	電話板橋0496番
大阪支社	大阪市東區南本町四ノ一八	電話船場2850番

昭和十八年

道路の改良

一月一日

第二十五卷
第一號

言 頭 卷

新しき光輝く紀元二千六百三年の春を迎へたが既に大東亞戰の第二周年に入つたのである。緒戦に於ける陸海軍の赫々たる戦果はいやが上にも其の偉大さが感ぜらるゝが統後に在る國民は之れ亦軍事援護に産業擴充に貯蓄奨勵に隣保共助に生活簡易化に之れめて怠る所なき形相である。然れども率直に云へば未だ充分徹底せざるものと謂はなければならぬ、即ち或者は豪華な生活に或者は權力を振ひ或者は私利を圖り或者は職務を濫用し或者は闇取引に或者は自己宣傳に其の他種々の不徳不義不純不正を敢てする者の存在するが如く思はるゝ、蓋し國戰時體制に則り眞劍に滅私奉公すべき今日に於て唯人を教へて自らを訓へず言行一致を缺く者のあるは寔に歎息せざるを得ない。

朝より夕に至るまで働くにも働かざるに萬事唯天が始であり、終であり、アルハドであり、オメガであり、理由であり、動機であり又規律であり、標準であり之れが我心の確乎たる不斷の願ひであらねばならぬ、敬天とは蓋し此の如きを謂ふのである、我々はとかく自分の意志におもねるものである、自分分て偉大なる事と思へるものを爲さんことを希ふものである、然れど我々に取つての喫緊事は爲さねばならぬ立場に置かれたるを念ひ、夫れが偉大なることでないのみでなく如何に小さい事でも唯正義純潔の精神を以て努むることである、之れ天の意に従ふものと謂ひ得るのである。

目まぐるしき現世の推移と動亂との渦中に在つて心を健全に保つ事は時に動亂を超越し脱離して遠觀することが肝心である、若し之を遠觀し得るときは或は懷疑に落ち或は焦燥に驅られ或は利己に陥り或は名譽心に捕はれ或は他人の苦しみを思はずして我身の安全を圖り自ら安きに居て他を働かしむるが如き八紘爲宇の精神を没却し去ることなきを保し難いのである。

念ふに大東亞共榮圈の建設は我が廢國の精神たる八紘爲宇の理想に淵源し、其の企圖する所は各國各民族をして各其の分に應じ其の所を得せしめ、博愛と道義とに基く新秩序をとゝのへ、恒久的世界の平和に到達せんとするに在る。其の指導的地位に在る我日本國民は自ら省みて其の至らざる所を思ひ、其の及ばざる所に考へ、其の差せざる所を省み、自惚ることなく、訓練に訓練を加へ、慎重に慎重を重ね苟くも指導的位置にある者の品位を保持し行かねばならぬ。

紛糾、當惑、不確實、疑念、憂懼一切を我々の理念から又煩悶、慾心を我々の情操から封鎖し決して其の侵入を許さないこととして何事も唯沈着不動の魂を保持して之を遠觀することに努めておるとはJ・G・フイヒテの言葉である。寔に然り、爲政治家も一般國民も此點に留意し之を實行に移して倦むことなく職域奉公の誠を竭すことが喰ふか喰はれるかの大東亞戰爭の第二年に於て吾人の歩むべき途である。吾曹は祈る官軍民を問はず我皇國の臣民一切が茲に勵み此に努めんことを。(洗民)